

平成26年度岡山大学 大学改革懇談会（関東地区）実施報告

1. 目的

今日の、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、社会は大学に対して、世界に通用する人財の育成を求めています。また、大学は世界に開かれ、魅力ある学都である必要があります。

時代の変化に対応し、社会の要求に応えるためには、変化に適応した新たな組織の構築や人財育成を行い（Build/ビルド）、既存組織をより魅力的な体制に刷新し、構成員のマインドをかえる（Renovate/リノベート）ことが肝要です。

岡山大学では、このビルド&リノベートにより、時代の変化に柔軟に対応できる大学改革を行っており、学生の個性と自主性を伸ばさせ、実社会で役立つ実践教育を行い、グローバルに活躍できる人財を輩出します。

この度、企業等の外部有識者との意見交換を通じて、「地域に根ざし世界に輝く」大学となるべく、大学改革の方向性や取組等に学外の意見を反映させることを目的に、本学のOBを対象に懇談会を実施しました。

2. 日時・会場

日 時：平成27年3月13日（金） 11：30～14：30

会 場：如水会館 3階 けやきの間 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番1号

3. 出席者

□外部有識者（五十音順）

梅 田 一 郎 ファイバー株式会社 代表取締役社長

小 長 啓 一 一般財団法人産業人材研修センター 理事長、島田法律事務所 客員弁護士

後 藤 昌 之 日本製罐株式会社取締役経営企画部長（兼）管理部長

竹 原 啓 二 株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役社長、岡山大学 Alumni 東京支部事務局長

米 森 重 明 公益社団法人新化学技術推進協会グループリーダー部長研究員、岡山大学 Alumni 東京支部幹事

□岡山大学

森田学長、荒木理事・副学長（社会貢献・国際担当）、松川学長補佐（大学改革担当）、後藤学長補佐（大学改革担当）、黒神学長補佐（大学改革担当）

陪席：大学改革推進室（徳山室長、本城主査、久保田室員）、東京サライトオフィス（宮道准教授、加本主査）

4. 頂いた意見の概要

■教育関係

1. 文系・理系を問わず、テーマごとに少人数でディスカッションをさせ、発表をさせ、まとめの講義をするという、インタラクティブな教育をもっと工夫しても良いのではないかと。
2. 大学を卒業するまでにはTOEIC900点を取るというのを必須とし、岡大を出ていれば最低でもこの程度の力があるということが分かるような仕組みにしてはどうか。
3. 外国語教育の充実のみならず、岡山の特徴を生かし、地域性等を考えた中国語の充実もあり得ると。

のではない。

4. 入学直後に、大学での学び方を教授する。始めに動機づけを行い、1年生で良い成績をとった学生が留学生に選ばれるとか、スパイラルアップされるような仕組みがあればよい。
5. ビジネスリーダーの輩出のみならず、会社の中堅幹部を養成する様な理論と実学とのバランスのある教育で特徴を出すことができないか。
6. 源氏物語の54巻を英語で概略説明できるとか、本当の教養みたいなものの養成が必要ではないか。学部の3年、4年、大学院生でも、教養教育を常に受けられることも魅力的ではないか。
7. 各学部で売りとなる講義、名物教員を盛り立てる努力も必要。
8. 今後の社会では、40歳前後で職の継続か転職を検討する様な節目のある社会になることが予想されるため、それに対応した生涯教育の制度を考えることも必要。
9. 超高齢社会の中でも岡山県の人口は増えている。65歳以上の夫婦が岡山に帰ってくることも増えており、岡山県はそういったことを奨励しようとしている。高齢者向けの学び直しの場の提供も必要。

■就職支援関係

10. 学生はがんばって公務員試験に合格しているものの、中央官庁への採用がないというのは、アプライが出来ていないということ。岡大卒であっても採用されれば、東大、京大という格差は全くない。OBが、東京サテライトオフィスを通じてオリエンテーションなどのお手伝いはできる。
11. 岡大の2・3年生を東京に連れてきて、東京のOBと交流する機会を増やす。逆に、東京とか大阪で活躍しているOBが、岡大へ行き学生を刺激することも必要。

■グローバル人材育成（受入・派遣）関係

12. サウジアラビアからの外国人留学生が減少傾向。せっかくのアラブとの繋がりを絶やさないと伸ばすことが考えられないか。
13. 岡山に渡日した留学生の何人かでも地元企業に採用され、地元企業が活性化されるようなことを県や市とも一緒に考えていけば面白い。
14. 産業界で求められる人材というのが、結局は人間力。留学させて半年くらい苦労したグローバル人材は魅力的。もっと大がかりに進められても良いのではないか。
15. 一般学部の学生達にもできるだけ留学などがし易いよう、後押しが必要。

■地域連携、産学官連携関係

16. 企業の研究者が大学に気楽に立ち寄られたり、たまり場があったりといった機能があればよいのではないか。
17. 真庭市での地方創生の取り組み（集成材による木造建築、廃材を利用したバイオマス発電、地産地消等のプロジェクト）への技術分野に関して工学部、農学部等との積極的産学官連携の推進が必要。
18. 政府方針である地方創生の枠組みの中で、岡山大学がもっと関与できる手段等がないか。
19. 岡山にはナカシマプロペラ（メディカル）など人工関節等の実績がある企業がある。医学と工学の連携を深めたり、産学連携の推進ができないか。
20. 基礎研究は優れているが、生産物として出て行かないという日本の特性がある。製品開発へいち早く取り込み、企業との連携を深めていくことが大事。

21. キャンパス内にサロンのようなところがあり、いろいろな方と話ができるような場所があれば良い。
22. キャンパスは津島と鹿田が主であるが、総合大学としてはほぼ1ヶ所であり、岡大の強みである。津島と鹿田を生かす特徴ある研究のテーマをいくつか作って、それを伸ばすことへ集中してはどうか。

■予算関係

23. 予算の出所は、文部科学省、厚生労働省だけではなく、ふるさと創生で言えば内閣府であり、産学連携では経済産業省もある。官庁の後輩たちに聞けば、金はあるがアイデアがないという声も聞こえてくる。具体的なアイデアをアクションプランにつなげていただく努力を行うことにより予算獲得も可能なのでは。
24. 運営費交付金の重点支援に関連して、③（世界で卓越）か②（強み・特色ある分野で）を目指すべき。先端を追い求める人がいなければ、良い教育研究などができる訳がない。

■学都基金関係

25. 寄付については、まずは地元企業から依頼をし、その後中央の企業へも広げていくのが良い。
26. 基金については、具体的な目的や必要性和、現状の予算の不足がわかるようにしてもらえると、OB等がみんなでバックアップしようとしてくれるのではないか。
27. 岡山に帰ってきたOBが、図書館を使えたり、サロンがあつたりして、コミュニティーの場があれば、最後に岡大に寄付するといった愛校心が芽生えてくるのではないか。

■その他

28. ランキング100位を目指し、是非実現してほしい。世界の学生は、ランキング表しか見ていない。ランキング100位は難しいが、今の順位からどんどん上っているということだけでも、高校生にとって見れば非常に関心が持てる大学になる。
29. 岡山大学のホームページの到着ニュースに掲載されていることが地元の新聞には載っていない。地元紙とうまく連携するように。
30. 広報としては、ブランディング作りが必要。

5. 本学からのコメント

(森田学長)

- ・本日は、お忙しい中、本学へのご意見をいただき、大変参考になりました。近年、社会から大学へ様々な要請が拡大していることを認識しています。本日は、有意義なご意見を頂戴し、さらに益々やる気が湧いてきました。ご意見から新たなアイデアが湧いてきております。1年後には、変わった岡山大学が見せられるよう邁進してまいりたいと思います。本日はありがとうございました。今後ご指導ご鞭撻よろしくお願ひいたします。